西合志南小学校 学校だより 文責 田中 宏和
西南小の風
だれかのために じぶんのために いっしょうけんめい
令和5年11月22日
第30号

出番だ！出番だ！

昼はとても温かで、
校外学習日和りでした！

じわじわとインフルエンザの流行が押し寄せ、児童もですが職員も、自身や我が子のインフルエンザ罹患による休みが少しずつ増えてきています。そんなときは助け合いです。休んだ職員の代わりに他の職員が入ります。そして、私にもいよいよ出番が来ました。今までも「手が足りないときは言ってね」と言っていたにもかかわらず、「校長先生は最後の砦だから」と言われ、「ベンチウォーマー」と化していた私ですが、ついに出場機会が巡ってきました。病休や出張が重なるチーム状況に監督（教頭）も行き詰まったのでしょう。どうしようとなっていたところに、「じゃ、私が」と手を上げ、晴れて二年生の校外学習の引率者となりました。ついに現場デビューです。うれしい一方で、私の小学校経験は遙か昔（平成六～八年）のため、二年生をうまく引率できるのかという内心の不安は、実は小さくありませんでした。

行き先はかりんとう屋さん「ひだまり」です。学校からは約三〇〇メートルの距離。「近いな！」と高まりきった気合いの持って行き場に困ったふりをしつつ、むしろ近いことにちょっと安心しました。

朝、二年五組に行くと、ありがたいことに歓迎ムードが高まっていました。そんな子どもたちの様子に素直にうれしくなります。私もあいさつをして、正門付近に集合整列しました。担任の有働教諭からもらったプリントも熟読し準備万端。

さあ出発です。有働班（行先：上須屋郵便局）と田中班があり、国道を渡ったところで別れます。いよいよ私の独り立ち…と言っても、そこからは約五〇メートルの目と鼻の先です。すぐに「ひだまり」に到着しました。

お店の方にご挨拶をして、お店についての説明を聞きました。このお店は、店舗兼かりんとうの手作り工場で、全国に出荷しているそうです。現在一三種類の味があり、甘いものだけでなく、大人のおつまみ的なかりんとうもあります。子どもたちの熱心な質問に紛れて、私もそのところはちゃっかり質問をしました。

ここでね、生地を練るんだよ

その後、四人ずつ工場の中を見せていただいた後、ついに試食の時が来ました。六種類のかりんとうが入った皿を持った私に、待ってましたと襲いかからんばかりの子どもたちをコントロールし、一人ずつ分けていきました。このあたり我ながらいい仕事をしています。（自画自賛我田引水自己中心）

少し残っていたかりんとうも瞬く間に平らげ、「校長先生に」といただいたおつまみの試食も、子どもたちの食べたい合唱に押されてほぼ食べられ、試食タイムは終わりました。わかります。授業でお菓子を食べるという非日常が、お菓子の味を何倍もおいしくするのです。おみやげまでいただいて恐縮しながら、みんなでお礼を言って「ひだまり」を後にしました。

次の日も冨田教諭の依頼で、二年一組と須屋神社とローソン須屋店に行きました。嬉しいオファーです。まずは須屋神社。案内していただくのは田尻さんです。田尻さんには神社の敷地内に入る時の一礼から、手水、二例二拍手一礼など、お参りの仕方を丁寧に教えていただくとともに、須屋神社の歴史も説明していただきました。はじめは興奮して騒々しかった子どもたちも、次第に田尻さんの説明に聞き入っていました。最後に私から、田尻さんは西南小の校舎を建てた方だよと紹介すると、「エー！」という素直な驚きの声にほのぼのした次の瞬間でした。「一人でですか？」という声にドドッとズっこける一同でした。（田尻さんは、本校を設計された方です。そういう意味では当たってる？）

ローソンでは、店長の潮崎さんにお世話になりました。まず店内で、飲み物の冷蔵庫の裏側（全体が冷蔵庫になっていました）や、厨房での揚げ物調理の様子などを見学させていただきました。一般の買い物に来られているお客さまにご迷惑がかからないよう、みんなで努力します。しかし、おいしそうな食べ物の誘惑や校外学習の興奮により、商品をつい触ってしまったり、自分が好きな物を見つけては友だちと熱く語らったりと、落ち着けという方が無理だったのかもしれません。店内も二八人が入るには広くありませんので、数名ずつの見学時はお菓子売り場に待機という忍耐を強いていました。その後は、店外で様々な質問に答えていただきました。

誘惑に耐えるの図

実際に地域の方々にお会いしたからこそ、子どもたちをとても大事に見守っていただいていることがよくわかりました。訪問先で言われた「毎年来てくれてうれしい」「小さな頃から知ってる子が、大きくなっていく様子がうれしい」という言葉がそのことを裏付けます。そういう意味では、今回の校外学習で一番学んだのは私かもしれません。